



社会福祉法人 滴々会

第71号 20周年記念号

のん の しゃ  
**音野舎だより**



**祝 20 周年**

**これからも職員一同  
よろしくお願ひ致します**



社会福祉法人滴々会  
理事長 山内 知枝

うきべ医院の一室で、平成十年度事業開設の計画申請書類を揃えたとたんに九〇十年度事業に変更の連絡がきて、主人と慌てて徹夜作業になつたことや、間際になり土地取得価格があまりにも高額であると事業団から問い合わせがあつたりと事業計画に携わった皆が震え上がるほどの思いをしたことも時として懐かしい語り種になることもあります。

開設までの気苦労を礎に、時が経つのは早いもので二十周年を迎える音野舎でございます。この二十年の間に事務局長山内耕作、前理事長浮邊正和との別れがあつたことは大きな哀しみと事業・施設運営への不安感を覚えましたが、多くの職員に助けられ平成二十六年一月には前施設長からバトンを受け取りました。施設長としての職をそれなりに遂行できましたことは、理事事をはじめ、役員のご助言と現場職員の温かい励ましと協力があるからこそと感謝しております。また、本年五月から理事長の職も兼任となり、その重責に自分の限界を思い知らされることがあります。今を乗り越えなければならぬことの信念と努力で事業の安定・充実を決意しております。これからも多くの方々のご助言をお願いすることになるかと存じます。

当初は特別養護老人ホームを主にケアハウス、



感謝



生い立ちから二十年の経過を想つて  
事務長 古藤 一徳

今年のコンセプトと致しまして『開かれた音野舎』を提言致しました。老若男女誰にでも利用しやすい音野舎をイメージしました。それには、各職員が所属する外部団体の会議の場、広報の場として、また地域への伝達や行事等に音野舎二階の地域交流センターを利用していただくシステムです。利用につきましては事前にご相談していただければ幸いです。また、各事業所の相談・見学・お試し等も遠慮なくご連絡下さい。

これからも地域住民の皆様に尚一層の御意見、御支援を頂きながらも研鑽を重ねてまいります。音野舎のピーアールに終わってしまいそうですが、今日この日から皆様のご利用をお願い申し上げます。

最後に開設以前から二十数年、屋内屋外はもどより景観整備にいとまをさいている一人の職員がいることをここに紹介し、彼への感謝の意を記します。

初代施設長の功績、活躍は数多いと思いますが、今、別の形で施設を見守つていただいております。

私達は今年、初代理事長の逝去で大きな支えを失つてしましました。又、事業運営の中心として奔走されていた初代事務長は、志半ばで、本人、施設としても大きな損失だったと思います。

これまでが今までの延長線上にはないことは明らかな気がいたします。

これからも続いていきます、初代副施設長で現在の山内知枝理事長（施設長）を中心に、今後せまり来る、一見厳しい環境をチャンスととらえ、さらに次の一步へと前進していくよう、皆一緒に精進していくたらと願うところでございます。

少人数でのデイサービスで始まりました事業も今では多機能ホームを含めて九事業所となりそれぞれ充実して参りました。開設条件のケアハウス併設時点で、一貫性のある高齢者総合福祉施設として、安心と安全を徹底して御利用者、御家族の精神的健康をサポートすると共に、地域の御理解と信頼を得ながら施設の健全な発展に努力するという方針は、少なからずその成果は見えてきたと思つております。

二十年の流れを想像して、紐解いてみることにします。理事長、施設長、副施設長、事務長が共に初代（ここに二十年の流れの無情さも感じます）として、地域の福祉及び、経済の一端を担うという「志」をもつて「音野舎」の開設に至り、その後の事業運営においては大変な労苦、努力があつたと思いますが、目指していた高齢者の総合福祉施設としての、機能、役割を十分果たせる様になつたと思います。

その間利用いただいた方々は勿論、理事長をはじめとした人達の思いを汲み取りながら共に歩んできた現・旧の多くの職員、そして役員、関係機関の方々に内外からの協力を得ながら培われた二十年の音野舎は、今大きな地域の財産として育つている様に思います。

私は今年、初代理事長の逝去で大きな支えを失つてしましました。又、事業運営の中心として奔走されていた初代事務長は、志半ばで、本人、施設としても大きな損失だったと思います。

初代施設長の功績、活躍は数多いと思いますが、今、別の形で施設を見守つていただいております。

制度、福祉環境の流れ、変化は紙面上触れませんが、二十年で築き上げたこの地域の財産と誇りはしっかりと死守しながらも、今後は全てが今までの延長線上にはないことは明らかな気がいたします。

これからも続いていきます、初代副施設長で現在の山内知枝理事長（施設長）を中心いて、今後せまり来る、一見厳しい環境をチャンスととらえ、さらに次の一步へと前進していくよう、皆一緒に精進していくと願うところでございます。

二十年を振り返って



総務・施設サービス部長

有木 保幸

居宅サービス部長

鶴園 尋倫

地域サービス部長

春田 由美子

在宅サービスを振り返って

二十周年を記念して

平成十年十一月の開設以来、多くの皆様に支えられ二十周年を迎えることができました。

開園までは、職員の採用書類等の配布や近隣の特別養護老人ホームでの事前研修の手配、開設許可申請書の提出準備、入居者の入居日程の調整と慌ただしく、ようやく開園の日を迎えることができ、充実感を感じたことを思い出します。

事業開始当時は、特別養護老人ホームとショートステイ、ケアハウスの施設サービスと、在宅介護支援センターとデイサービスセンターの在宅サービスを両輪として、職員数四十名弱でスタートし、「音野舎の介護」を確立すべく夜遅くまで試行錯誤を繰り返していました。

また、排尿センサー やオゾン発生器による消臭システム等の最先端の設備を備えた生活環境と職員の努力により、ご家族や見学に来られた方々から「老人ホーム独特の臭いがしない」と言われ、取り組みが成果として認められ、うれしく思いました。その後、ヘルペーステーション、グループホーム、多機能ホームと事業所を順次開設し、福祉の拠点づくりに努めてきました。

一方、職員待遇では、六十五歳への定年延長をいち早く行い、定年後も希望者には継続雇用を実施するなど「安心して働ける職場」づくりにも取り組んできました。そのことが評価され、平成二十八年度高齢者雇用開発コンテストでは「高齢・障害・求職者雇用支援機構特別賞」を受賞しました。

高齢者の増加に伴ない在宅サービスの充実が進められる中、二十周年を機に地域における介護サービスの中核施設として、より一層の飛躍を図りたいと考えます。

二十年前の開園当時、私の音野舎職員としての始まりは、在宅支援を中心とする在宅介護支援センターでした。同時に在宅サービスとしてデイサービス、ショートステイ事業の始まりもこの年でした。

スタート時は、全く利用者がなく特養以外は閑散として、どのようにして音野舎を地域に知つて頂きサービスを利用していくか不安な毎日でした。もう一人の職員と一緒に、六十五歳以上の高齢者宅を隅々まで訪問し地域の高齢者実態調査や音野舎の広報活動に毎日必死になつて飛び回っていました。

また、地域の寄り合いに参加したり、各集落で介護予防教室等を開催し積極的に出向き広報活動を行いました。一方では地域の自治会長さんや民生委員、

老人クラブ役員の方々、音野舎施設職員のご尽力を賜りながら、おかげ様で少しずつ御利用者も目に見え

て増え、施設内には老若男女多くの方々の声が飛び交い賑やかになっていきました。私自身の思いの中には、音野舎を地域の高齢者やその家族・地域の子どもたちとの交流の場、介護の悩み相談の場、そして何よりも地域の皆さんのが福祉の拠点にするという目標がありました。

最初はデイサービスで勤務し、平成十二年介護保険制度導入の際は、不安でいっぱいのスタートでありました。季節に応じた行事やレクリエーション等、デイサービスならではの企画として何よりもご利用者が楽しんで下さっている姿にやりがいを感じ、毎日楽しく仕事をさせていただきました。

平成二十三年、小規模多機能ホーム開園と同時に、地域密着型サービスについての取り組みを行うことになりました。小規模多機能ホームは二十四時間三百六十五日対応の新しい形態のサービスであり、施設から在宅への移行を推奨している国の施策の切り札として、地域に定着しつつあります。御利用者のその日、その時の状態に合わせ柔軟にサービスを調整し、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたいという願いに応えております。

今まで多くのご利用者、ご家族、そして地域の方々との出会いがありました。今ではその出会いが自分の財産となり、福祉に携わる者としての道しるべになつてているように感じます。

これからも地域の方々から信頼される職員となり、信頼されれる事業所作りを行つていきたいと思います。



# 地域との関わり



## グランドゴルフ大会

(平成 24 年より開催)



知覧平和公園ゲートボール場にて、音野舎グランドゴルフ大会を開催しており、今年度で 7 回目を迎えることができました。毎年たくさんの方々にご参加いただき感謝しております。

## 転倒予防教室

(平成 11 年より開催)

## いきいき健康教室

(平成 15 年より開催)

音野舎や保健センターなどで、年に 4 回料理教室や作り物教室などを行なっております。教室が始まる前には看護師によるバイタルチェックを行っています。当初は登録人数 15 名でしたが、現在では 70 名になりたくさんの方々に参加していただいております。

各地域の公民館などに職員が出向き、転倒予防教室を行い、筋力低下を防ぐ予防体操や口腔機能の重要性についての講話などを行なっております。



## 音野舎講演会

(平成 12 年より開催)



音野舎講演会では様々な分野でご活躍されている方をお招きして、地域交流センターで講話を行っていただいております。

音野舎講演会



# 地域・ご家族からのメッセージ

みのり会代表 内門 リツ子 様  
(知覧町永里)

20周年おめでとうございます。

音野舎のいきいき健康教室や地域ふれあいサロン、炊き出し訓練等に定期的に参加させてもらっています。ご利用者や職員さん達との関わりを通して、ボランティアの私達のほうが反対に元気を頂いており、会の活動意欲にも繋がり助かっています。

利用者ご家族様 佐多 昌直 様  
(知覧町郡)

創立20周年 誠におめでとうございます。

今、わが国は少子高齢化が大きな社会問題となっており、とりわけ年寄りが安心して暮らせるような社会作りが求められています。この事からも音野舎の役割は益々重要になってくるものと思います。今後とも更に地域の中核施設として機能発揮されますよう祈念いたします。

皆に迷惑をかけないよう病気しない事、転ばぬように運動も心掛けていこうと思っています。眞実一人は淋しい、堪えがたいです。音野舎で家族に心配かけないよう、元気で頑張ります。

利用者ご家族様 中村 宜也 様  
中村 伸一郎 様

音野舎の創立20周年おめでとうございます。

母は入所して4年目。ステージに応じてケアハウス、グループホームと変わりましたが、ささやかながらここで社会と繋がっています。笑顔で穏やかな日々である事を祈っています。スタッフの皆さんよろしくお願ひします。



突然の別れでした。  
弟夫婦達のように音野舎に入所しようと話していた夫は逝ってしまいました。親戚の方々が五人程、音野舎で健やかに生活され、満足され幸せな姿を私は見ていました。  
優しい職員の方が適切に対応して下さる、いつも心配りして下さると云う安心感があつて、本人も家族も信頼していました。

春は音野舎の玄関広場の櫻が見事な満開で美しい、中庭の芝生はいつも良く手入れされ緑で心や体が癒され、グランドゴルフも楽しめるし、皆と会話もはずみ気分が明るくなります。毎日ゆっくりお風呂で寛げる等、有難いことです。  
浮辺先生御夫妻が、老人が安ずることなく楽しく生活出来る音野舎を建てて下さったことに感謝しています。

ケアハウス入居者 佃 京子 様

入院中の朝、夫と会話をしている時、夫が深呼吸なのか大きく息を吸い込みました。然し再び話すことはありませんでした。

# 特別養護老人ホーム・短期入所



二十年が過ぎ、入居されている方々も高齢化・重度化が進んできています。今後も一期一会を大切に、利用者の方々が毎日を穏やかに過ごしていただけるよう一緒に日々を過ごせたらと思います。

この仕事を通じて人と人の出会いの大切さをより感じることができました。

この仕事を通じて人と人の出会いの大切さをより感じることができました。

開園当初は、私を含め介護未経験の職員も多く、職員全員で「ああでもない、こうでもない」と試行錯誤しながら懸命に介護に取り組んでいたことを思い出します。私も今年で二十年目を迎えます。いろいろな方々のお世話をさせていただきましたが、その中でも忘れられない方がいます。私のことを自分の息子と勘違いされ、亡くなるまで私を息子と思つていただけた方がいました。私が見えるとどんなに離れていても「どこに行くのか?」と大きな声で私を呼びながら、小さな体で一生懸命車椅子を漕ぎ、私のことを追いかけてくれました。今でも忘れられないのが、私が自分の子供をお宮参りのあとみんなに見てもらおうと施設に連れてくると、すごい剣幕で「そんな小さな子供を連れてきたらダメだ」と怒られました。私も怒られてしまったので、その場を離れようとするとき、先程とはうつてかわって「抱かせんね」と可愛らしい声で私に言いました。振り向くと何とも言えないにこやかな顔で、両手をさしだしていました。その時のやりとりが今でも昨日のように思い出されます。



特別養護老人ホーム 主任生活相談員 大崎 正司

特別養護老人ホームは、地域の福祉の拠点として平成十年に開園し、今年で無事二十年目を迎えることができました。

# ケアハウス



ケアハウス 生活相談員 福永 澄代

ケアハウスは音野舎開園と同時に開設された定員二十名の軽費老人ホームです。

開設当初は職員三名、利用者夫婦一組二名でスタートし、職員も介護の知識もあまりなく手探り状態だったそうです。次の日、利用者が一人増え三人になつたそうです。

それからケアハウスとはどういうものか、ということを勉強するためにいろんな施設に見学に行つたり、利用者を増やすためにチラシをもつていろんな場所に足を運び配つたりしたそうです。地域の人にケアハウスとはどんな所かということを知つていただき、どうしたら利用者が増えるかということを試行錯誤していたそうです。

その努力と他事業所の協力もあつて、四年後には満床になり現在に至ります。鹿児島県内だけでなく、東京、大阪、広島など県外からの希望者、利用者もおられました。

現在、男性五名、女性十五名、計二十名が利用されております。日中は談話室にて工作、手芸など趣味活動をされたり、レクリエーションを楽しまれたりして過ごされています。

ケアハウスの行事として、新年会、そうめん流し、カラオケ、外食など他にもその時々にて色々な催し物を楽しんでいただけるよう計画しております。

これからも利用者一人ひとりが毎日元気で快適に過ごせるように、職員も日々努力していくと思っています。

# デイサービスセンター



デイサービスセンター 生活相談員 田畑 伸悟

デイサービスセンターは、音野舎の開園と同時に定員十名のE型デイサービスとして事業を開始しました。現在は、定員三十名で通所介護・基準型通所介護予防サービスを運営しています。

事業開始当初は、外出して人との交流を図りたい、ご家族の介護負担軽減といったものが大きな役割となっていました。しかし平成十八年に介護予防事業、平成三十年度からは総合事業が始まり、デイサービスの役割も変化してきました。

音野舎では、運動機能向上、口腔機能向上、栄養改善のサービスを提供しています。他者との交流や家族の負担軽減だけでなく、自立支援や身体機能の向上、地域での生活を継続する為の支援といった役割が強くなっています。

今後は、地域で高齢者を支える「地域包括ケアシステム」の中で、デイサービスの役割も一層変化していくと思われます。利用者、ご家族の皆様が安心して自宅で生活出来るよう、機能向上の側面をふまえつつ生きがい作りが出来るデイサービスセンターでありたいと考えています。

レクリエーション活動や季節の行事、地域ボランティアの皆さんと関わりながら、笑顔あふれる事業所を目指しています。また、生活している地域で役割を持つて生活が継続出来るよう、デイサービス職員だけでなく、訪問介護等の在宅サービス、地域の皆さんと協力しながら利用者の皆さんを支えていきたいと思います。

音野舎の二十周年に皆様と関わることが出来ることに喜びを感じ、職員一同これからも頑張っていきます。

## ケアプランセンター主任　有薗　由佳里



ケアプランセンターは平成十一年十月一日に開設され、私は十五年からケアプランセンターにケアマネジャーとして勤務させていただいております。

ケアプランセンターは介護保険制度のサービスを利用される介護の必要な方やご家族の要望に沿いながら、心身の状態やご家庭の状況に応じて適切なサービスが利用できるようデイサービス、デイケア、ヘルパー、訪問看護、ショートステイ等の事業所と連携を取りながら計画書を作成させていただいております。また、転倒予防教室、認知症サポート養成講座も開催し、地域の方々に介護予防、認知症予防の広報に努めています。

この二十年間、たくさんの御利用者の方々との多くの出会いと別れを経験させていただく中で、再び御利用者様の周囲の関係者の方々と御縁を結ばせて頂くこともあります。不思議な縁を感じております。これまで困難にぶつかり、落ち込むことも多々ありましたが、周囲の方々の温かい励まして、これまでなんとか二十年間働き続ける事ができました。

これからも御縁を大切にしながら、出来る限り、御利用者の方々に生きがいを持つて楽しく毎日を送つて頂けるよう、また、御家族の方々が無理せずに介護を続けられるようお手伝いをさせていただきたいと思います。



## ヘルパーステーション サービス提供責任者　川原　幸子



ヘルパーステーション音野舎に入職して半年になります。サービス提供責任者としての重責を感じながらヘルパーの皆さんと御利用者のお宅を訪問し、生活のお手伝いをさせていただいています。

平成十二年に介護保険制度が施行され、様々なサービスを利用する事が出来るようになりました。その中でも近年は在宅介護を行うケースが増え、国も在宅介護を推奨しております。その為の支援も行われています。訪問介護は自宅で出来る限り自立した生活が送れるよう、また住み慣れた環境で生活できる為のサービスです。私はヘルパーとしてこの仕事をさせていただき感じる事は、在宅生活をされている方々の一番身近で生活の細かい部分まで支援し、ご本人が望むその人らしい生活ができるよう、自立に向け少しずつでも良くなるていく経緯を間近で見ることが出来ます。



## 訪問看護ステーション管理者　山口　清恵



訪問看護ステーションは平成十四年一月に開設され、十六年が経ちます。住み慣れた地域やご家庭でその人らしく療養生活ができるよう、看護師が訪問し、御利用者に必要なサービスを行っています。主治医の指示のもとバイタル測定や食事のケア、排泄のケア、入浴介助、傷の手当て、リハビリなどを御利用者の状態に合わせて行っています。御利用者の病状が安定し、在宅生活が少しでも安心して送つて頂けるように、また残存機能を維持できる様に、出来る事は見守り、出来ない事をサポートしてきました。

私は訪問看護に勤めて十五年になりますが、御利用者や家族から「来ててくれたね、ありがとう。助かります。また来てね。」と笑顔で声をかけて頂くと嬉しく感じます。その言葉を励みに今まで勤めてきました。これからも御利用者が一日でも長く在宅生活ができるよう、各関係機関と連携してサポートしていくつもりです。これからも宜しくお願い致します。



# グレープホーム



グレープホーム管理者 福島 ゆかり

グレープホームは平成十九年、平成二十六年と  
それぞれ開園し、ユニットで対応しています。  
認知症の方を対象としており、御利用者の皆様が  
生活しやすい環境の中で見守りをもらいながら  
穏やかに生活しています。

開園当初は「共に生活する」という事を念頭に  
おいてスタートしたそうですが、「自分らしく、心  
おきなく生活して頂こう」「楽しい時間を過ごし  
て頂き」と、その為にはどんな方法がいいの  
か?どの程度の関わり方でいいのか?と悩み続  
けた事があったそうです。皆様一人ひとりの「個  
性」や「いま出来る事を大切に!」と、また時には  
人生の先輩としての知恵を頂き、笑顔に助けられ  
ながら今の「穏やかな時間」がつくりあげられた  
と思っています。

私は管理者としては二年目ですが、たくさんの方々に支えられ、助けられながら業務をして参りました。今も利用者様の笑顔に癒され・職員・御家族の方の言葉に励まされ、色々な経験や勉強をさせて頂いております。

今後もこれまでの経験をもとに更に努力を重ね、スタッフがするのではなく、出来る事は自分でして頂きたいと考えています。「介護者」にならず「支援者」として、利用者の皆様一人ひとりに「生活している」事を感じていただける様に、寄り添い・助け合い・支え合えるグレープホームでありたいと思っています。

# 小規模多機能ホーム



小規模多機能ホーム 副主任 松山 貞美  
平成二十三年四月地域密着型の施設として小規模多機能ホームが開園し、今年で八年目を迎えます。

様々な方々と出会い、御利用者、御家族、地域の皆様に支えて頂きながら事業所の運営が出来た事に感謝申し上げます。この感謝の気持ちを忘れず、事業所での基本理念を基に地域に根差した施設を目指して、今後も職員一丸となつて協力し頑張っていきたいと思います。

多機能ホームは自身の自宅でくつろいで頂けるような雰囲気があり、一日のスケジュールを決めず、その時々の御利用者の状態や体調に合わせた対応と職員の笑顔、話し相手等を通して頑張っている事業所です。住み慣れた自宅での生活を基本として、「手を出しすぎない援助や介助」を心がけて安心して生活出来るよう努めています。

毎月の行事や外出も相談して実施させて頂き、また、四季折々の取り組み園芸活動では、職員と共に畑にて野菜を栽培したり、プランターにて四季の花々を育てています。のどかな地域性を活かし、自然に触れる機会を積極的に取り入れた余暇活動にも力を入れ、利用者皆様の笑顔や会話が広がる温もりあるケアを目指しています。

事業所が地域を支え、地域から事業所を支えて頂けるような関係が築けるよう地域の輪を大切にして行きたいと思います。

# 行事風景

## 納涼大会



納涼大会では保育園児や幼稚園児、学生などの若さ溢れる演芸や地域の皆様による様々な演芸を披露していただいております。

また、調理で手作りした食べ物を屋台で販売したり、金魚すくいやヨーヨー釣りなど子供達が楽しめる遊びもあります。

## 敬老会



敬老会では長寿のお祝いをしたり祝儀舞などを披露していただき、敬老の日を祝っております。昼食はご家族と共に祝いの料理と一緒に食べ、家族団欒の時間を過ごしておられます。



## クリスマス会



クリスマス会では利用者様にとんがり帽子をかぶっていただきたり、職員がサンタクロースなどに扮し、クリスマスマードを楽しめています。



## 母の日・父の日を祝う会

母の日・父の日を祝う会ではそれぞれの事業所で家族と一緒にできるレクリエーションを考えたりして、楽しいひと時を過ごしていただいているます。



# 勤続 20 年職員紹介



居宅部長  
鶴園 尋倫



施設長  
山内 知枝



総務・施設部長  
有木 保幸



ケアプランセンター主任  
ケアマネージャー  
有薗 由佳里



ケアプランセンター  
ケアマネージャー  
三浦 幸恵



ケアプランセンター  
ケアマネージャー  
松園 智美



(開設当時の写真)



特別養護老人ホーム  
主任生活相談員  
大崎 正司



特別養護老人ホーム  
調理主任  
濱田 美夜子



デイサービスセンター  
看護職員  
柳 静子



デイサービスセンター  
介護員  
正田 和司

音野舎開園当初は38名だった職員も、現在は110名となりました。20年勤続者が10名、10年以上の勤続者が21名です。

これからも、職員一丸となり地域に根差した施設作りに努めていきたいと思います。

# 法人の沿革

## 社会の動向

平成9年9月

法人設立認可

平成9年10月

法人設立登記

平成10年11月

特別養護老人ホーム音野舎及び併設事業の事業開始

- ・特別養護老人ホーム音野舎  
(入所定員50人、ショートステイ15人)
- ・デイサービスセンター音野舎(E型)
- ・在宅介護支援センター音野舎
- ・ケアハウス音野舎(入所定員20人)

平成11年4月

ヘルパーステーション音野舎事業開始

平成11年11月

音野舎指定居宅介護支援事業所の事業開始

平成12年4月

- 介護老人福祉施設音野舎  
及び指定居宅サービス事業の事業開始
- ・介護老人福祉施設音野舎
  - ・短期入所生活介護事業
  - ・デイサービスセンター音野舎
  - ・ヘルパーステーション音野舎

平成14年1月

訪問看護ステーション音野舎の事業開始

平成19年6月

グループホーム音野舎の事業開始



平成9年

- ・消費税5%に増税
- ・世界初の量産型ハイブリッドカー  
トヨタ・プリウスが発売

平成10年2月

- ・長野オリンピック開催
- ・Windows98が発売
- ・大相撲で若乃花勝が横綱に昇進し、  
史上初の兄弟横綱が誕生

平成11年

- ・「だんご3兄弟」の291.8万枚の大ヒット

平成12年4月

- ・介護保険法の施行
- ・グリコ森永事件の時効が成立
- ・三宅島噴火で島民避難
- ・2,000円札発行

平成13年9月

- ・9.11 米国同時多発テロ事件

平成14年

- ・学校週5日制「ゆとり教育」スタート
- ・沖縄返還30周年

平成14年5月

- ・サッカー W杯 日韓大会

平成16年

- ・冬のソナタ ブーム

平成19年12月

- ・知覧町、川辺町、頴娃町の合併により  
南九州市が発足

平成 21 年 5 月

浮邊正和前理事長 春の叙勲(旭日双光章)を受章



平成 23 年 4 月

小規模多機能ホーム音野舎の事業開始



平成 26 年 4 月

グループホーム音野舎Ⅱの事業開始

平成 28 年 10 月

高年齢者雇用開発コンテスト 特別賞受賞



平成 30 年 9 月

小規模多機能ホーム増床



平成 21 年

- ・ ワールドベースボールクラシックで日本が 2 大会連続優勝
- ・ 総選挙で民主党が大勝  
民主・社民・国民の 3 党による鳩山内閣発足

平成 22 年

- ・ はやぶさ(探査機)が小惑星イトカワから地球へ帰還

平成 23 年 3 月

- ・ 東日本大震災が発生
- ・ サッカーなでしこジャパンW杯初優勝

平成 24 年 5 月

- ・ 東京スカイツリー開業

平成 25 年 6 月

- ・ 富士山世界文化遺産登録

平成 26 年

- ・ 消費税が 5% から 8% に

平成 28 年 3 月

- ・ 南薩縦貫道開通

平成 28 年 4 月

- ・ 熊本地震が発生

平成 30 年 9 月

- ・ 歌手の安室奈美恵さん引退

## 編集後記

ご利用者、ご家族、地域の皆様に支えていただき、20周年を迎えることができました。

音野舎創設時の理事長、施設長の想いを感じながら、今後も職員一丸となり、地域福祉の拠点となる施設作りに努めていきたいと思います。

### 広報委員会

有木 保幸 村永 さやか 堂園 千聰 浅田 育子  
松園 智美 安藤 由紀子 田畑 伸悟

## 発 行

社会福祉法人 滴々会  
高齢者総合福祉施設 音野舎(のんのしゃ)  
〒897-0302  
鹿児島県南九州市知覧町郡 2072 番地 2  
TEL 0993(58)7171  
FAX 0993(83)4771  
URL <http://www.nonnosya.com/>  
E-mail [info@nonnosya.com](mailto:info@nonnosya.com)

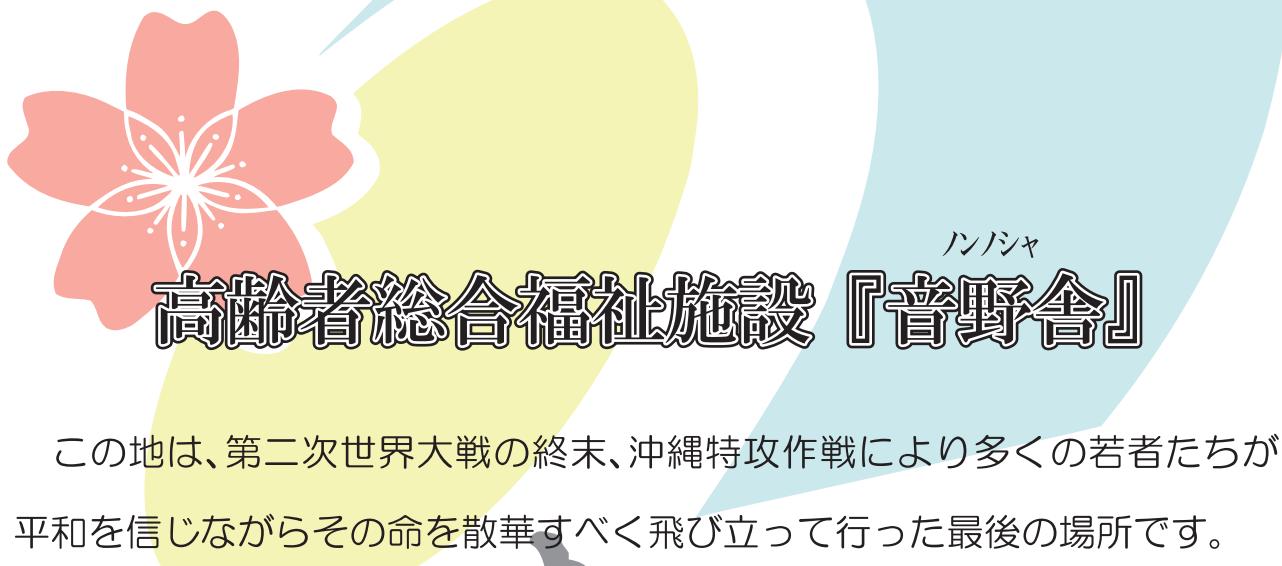
テキテキカイ

# 社会福祉法人『滴々会』

天の水が深山にしみ入り、ながいながい年月を経ながら岩間に滴る水は、一滴一滴、地上の万物に生命の息吹を伝えます。滴(しずく)は、互いに寄り集まって清流となり川となって、触れるものすべてを育みながら流れて行きます。人の愛もこの滴のように一人一人の心の中から湧き、流れて行きます。

私たちは、この自己の愛を自覚し、その愛を心貧しい人に、病める人に、老いた人に、やがて命終える人に、また命ある全てのものに伝えていかねばなりません。それは、私たちの素直で明るくあたたかい心からの行動となって伝えられていくべきものと信じます。

小さな美しい水滴に倣って『滴々会』と命名いたしました。



この地は、第二次世界大戦の終末、沖縄特攻作戦により多くの若者たちが平和を信じながらその命を散華すべく飛び立って行った最後の場所です。

今では「夢たがい観音」を奉る平和観音堂が建立され、「平和への発信地」として全世界への呼びかけの一端を担い、また平成四年には「平和を語り継ぐ町」を宣言し、この地が平和への主役であることはいうまでもありません。

現在、新市街地として変貌しつつありますが、この地に立ちますと広い野原(飛行場跡地)として見え、通り行く風は美しい音律となって聞こえます。

永遠の平和の地の一角を生活の場として、共に暮らす老人方にも安らぎの場所となることを念じて『音野舎』と命名いたしました。